

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	令和7年 月 日 (第1回)
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	朝日村 (20451)
地域名 (地域内農業集落名)	古見原 (下古見、中古見、芦之久保、沢下、南上、南下)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載

1 地域における農業の将来の在り方

減少面積 209㎡

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	282.19 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	282.19 ha
② 田の面積	19.48 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	262.71 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	25.19 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	-13.19 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	65.08 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

(2) 地域農業の現状及び課題

- ・古見原は基盤整備により、区画、かん水設備、JA集出荷所が整備されている。
- ・鉢盛中周辺は山形村の方が耕作しているほ場もあり、担い手の把握が難しいところがある。
- ・担い手の高齢化、後継者不足が課題。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

- ・引き続きレタス等の高原野菜を中心に野菜の栽培を行っていく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農用地は現耕作者やその後継者が引き続き管理し、空いた農地については、農地中間管理機構を利用して規模拡大を希望する担い手へ集積を進めていく。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	65.2	%	将来の目標とする集積率
			68.5 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
現状維持とする。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
現耕作者の耕作を基本とするが、耕作ができなくなった場合は担い手に集積・集約する。
(2)農地中間管理機構の活用方法
所有者と現耕作者の貸付意向時期に配慮し段階的に集約化する。
(3)基盤整備事業への取組
現状維持できるよう保全等の取組。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
・家族経営の後継者は補助金も活用しながら育成する。 ・農地ホスピタル朝日は必要に応じ人員を確保していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の取組
耕作者が管理していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☒ ⑨その他	

【選択した上記の取組内容】

③スマート農業による省力化を図る。
⑦多面的機能支払事業を利用した保全を実施する。
⑨農地中間管理機構を通じた貸借における賃借料については原則として金納とされているが、農地所有者の事情等により、地域の農地利用調整の合意形成において物納が必要とされた場合は、金納に代わり物納(ただし、米に限る)の取扱いができるものとする。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託 面積	経営作目等	経営面積	作業受託 面積	目標地図 上の表示	備考
別紙1									

5 農業支援サービス事業体一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
-	-	-	-

6 目標地図(別添のとおり)